

令和4年決算審査特別委員会  
代表質問日程表

質 問 日	会 派 名	質 問 者	
9月16日(金) 午前	新風みらい	1	田沢 信行 議員
	日本共産党議員団	2	長井 由喜雄 議員
	公明党議員団	3	樋浦 恵美 議員
	大河の会	4	埴 豊 議員

※質問方式は、一括方式です

令和4年決算審査特別委員会「代表質問表」

発言の順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
1	新風 みらい (田澤 信行)	1. 新型コロナウイルス感染症対策事業について	(1) 事業規模について	<p>① 令和3年度の新型コロナウイルス感染症対策事業は総額で42億7,859万2千円となっていますが、令和2年度の実績は97億7,539万8千円です。</p> <p>令和2年度は臨時給付金の影響が反映されているためだと思いますが、臨時給付金を除いた場合の令和2年度との増減金額と主な要因について伺います。</p> <p>② 燕市の歳出総額の418億6,351万9千円に対して新型コロナウイルス感染症対策事業費は10.2%の構成比率となっています。</p> <p>コロナ対策費用の構成比率10.2%が他の自治体と比較した場合、構成比率が大きいのか低いのか伺います。また、燕市の新型コロナ感染症対策事業は他の自治体に比べどのように評価しているのか伺います。</p> <p>県内の他自治体での比較をお願いします。</p>
			(2) 燕市独自の事業について	<p>① 令和2年度は「フェニックス11+」と銘打って特徴ある支援事業の展開を図ってきました。特に「ふるさと燕」大学生等応援事業は、そのユニークな発想から多くのメディアから取り上げられ、燕市の知名度アップにも繋がったものと思います。</p> <p>令和3年度においては独自性の高いユニークな事業を展開できなかったのか伺います。</p>
2	日本共産党議員団 (長井由喜雄)	1. 基金について	(1) 基金現在高の評価について	<p>① 積立基金の現在高は、全体で97億4,442万円と、前年度末から11億4,916万円の増となっており、財政調整基金で6億3,148万円の増、ふるさと燕応援寄付金が4億4,287万円の増、そして子ども関連である仲治奨学基金が959万円の減、子ども夢基金は3,357万円の減となっています。</p> <p>さらに介護保険給付準備基金が6,933万円の減、同じく特別会計である国民健康保険事業財政調整基金が8,609万円の増などとなっています。</p> <p>国民健康保険事業については、すでに令和4年度での国保税引き下げに政策的反映がされており、この数字に特に今回着目することはしませんが、監査委員の「まとめ」でも「市民福祉の増進を図るため、更なる健全な財政運営に取り組まれることを望む」としています。</p> <p>私も同様の意見を持つものです。</p> <p>基金現在高の評価について、どうお考えになるのか、答弁いただきたい。</p>

(次ページへ続く)

発言 の 順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
2	日本共産党議員団 (長井由喜雄)	2. 職員数について	(1) 正規職員数と会計年度任用職員数について	<p>① 正規職員と会計年度任用職員数については毎年看過できない問題として問うてきたところです。決算概要に示された、人件費等職員関係経費によると、令和2年度において605人、44.6%だった正職員が令和3年度においては595人、43.3%と1.3%も減少し、一方で非正規職員である会計年度任用職員は750人55.4%から780人56.7%と、人数、比率ともに増加しています。会計年度任用職員数を所属別に見ると780人中、教育委員会が663人と85%を占めていますが、これを自治体運営という視点から見たら、とても看過できない数字であると私は認識しています。当局の見解をお聞かせいただきたい。</p> <p>さらに、教育委員会の中ではどうなっているのかと見ると、社会教育課が29人で総務課に次いで多く、3.7%、学校教育課が138人で17.3%、子育て支援課にいたっては、496人と、会計年度任用の63.6%を占めているという現状です。</p> <p>子どもの命を預かり、保育、学童保育、教育に責任を持つ部署において、この数字はあまりにも無責任な数字と言わざるを得ないと私は考えます。保育士にいたっては、職種比較で給与が介護職員同様月額で10万円も低いと言われておりますが、公の保育施設で働く人たちの身分が、約7割が非正規雇用であるというこの現実からは、それも至極当然のことであることを裏付けるものとなっているのではないのでしょうか。</p> <p>令和3年度における数字を、「雇用」と、「命に責任を持つ」という観点からどう説明されるのかお聞かせいただきたい。</p>
3	公明党議員団 (樋浦恵美)	1. 財政状況について	(1) 財政状況について	<p>① 2021年施政方針で未だ感染症の収束が見通せない中、本市の財政状況は歳入においては、普通交付税の一本算定への完全移行による縮減に加え、感染症の影響による個人消費落ち込みや、企業活動の停滞などから、自主財源の根幹をなす法人・個人市民税の大幅な減収が見込まれ、歳出においては、感染症対策の経費や、公共施設の老朽化対策公債費の増など財政状況がさらに厳しさを増す見込みと言われていたが、決算の実質単年度収支を見ると約6億3千万の黒字、財調に約6億3千万の積み増しをすることができた。</p> <p>厳しい状況の中で、評価できるものと認識しているが、その要因と、分析についてどのように捉えているのか伺います。</p> <p>② 決算の概要に、令和4年度以降財政動向の中に感染症の拡大と共に、市税など歳入の減少が懸念されるほか、脱炭素社会、SDGsの推進等環境変化にも対応し、新たな行政需要に伴う歳出増が見込まれるとあるが、年金の減額、物価の上昇で市民生活が大変な中、行政サービスの低下が懸念されるが、どのように捉えていればいいのか伺います。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
3	公明党 議員団 (樋浦 恵美)	2. 重点施策の結果について	(1) 重点施策の結果について	①令和3年度は、新型コロナウイルス感染症で始まり、感染症で終わりそして収束が未だ見えてこないという極めて厳しい状況下の元、3つの人口増戦略を柱に3つの重点施策を展開された。 その中で、『ピンチをチャンスに』新たな地方創生で地域の活性化」では、イノベーション創出拠点整備支援事業はじめ6つの事業が展開されましたがどのような結果が出たのか、又、決算を踏まえて今後の課題は何があるのか伺います。
4	大河の会 (塙 豊)	1. 令和3年度コロナウイルス関連費用について	(1) 歳入における地方創生交付金の全体像について	①新型コロナウイルス感染症対策地方減収補填特別交付金や地方創生交付金など国からの交付金の全体像は総額でどれくらいの規模か。 ②コロナウイルスの予防接種の費用などコロナウイルス対策経費「コロナウイルス接種時のタクシー券補助」など燕市独特の補助や燕市単独事業など、また、小売業対象産業対策など令和3年度全体での歳出額をお聞きしたい。
		2. 自治体クラウドファンディングについて	(1) 令和3年度の実績について	①令和2年度実績と令和3年度実績の比較と評価について。 ②令和4年度に向けての取り組みについて。
		3. イノベーション拠点整備支援事業	(1) シェアオフィス整備について	①シェアオフィス整備が目的としての補助事業としているが、今後持続可能な施設として運営できるのか。